

座談会

とんぼの本会議

辻山良雄 中村邦夫 幅允孝

書店員、ブックカフェ店主、ブックディレクター。

つとに知られた本の眼利き3人が語る、
とんぼの本シリーズのこれまでとこれから。



▲中村邦夫 なかむら・くにお

「6次元」店主。映像ディレクター。1971年東京都生れ。荻窪のブックカフェ「6次元」を運営。『DESIGNZOO』で「デザインガール図鑑」、朝日小学生新聞で「世界の木屋さん」連載中。2013年秋に『6次元という空間遊び』（阪急コミュニケーションズ）刊行予定。

▲幅允孝 はば・よしとか

BAOエ(ハッハ)代表。ブックディレクター。人と本がもう少しうまく出会えるよう、様々な場所での本の提案をしている。伊勢丹新宿店の本館B2F「ビューティアポセサリー」に本棚を設置するなど、その活動範囲は本の居場所とともに多岐にわたり、「本の声を聴け」ブックディレクター「幅允孝の仕事」(著・高瀬毅/文藝春秋)に詳しく。www.bach-inc.com

▲辻山良雄 つじやま・よしお

リプロ池袋本店マネージャー。1972年神戸生れ。広島店店长、名古屋店店长などを経て、現職。名古屋では「BOOKMARK NAGOYA」の立ち上げに関わり、現在は池袋本店で数多くのイベントや大型原画展などの企画・運営などにも携わる。

中村 とんぼの本の印象をひとこと

でいうと「ヴィジュアル系オトナの教科書」ですね。そこにはコロナ・ブックス(平凡社)や、ふくろうの本(河出書房新社)、古くはカラーブックス(保育社)も入ると思うのですが、そのなかでもとんぼの本は入門書からデビューまでの、バランスがとれている。ただ、トークイイベントなどで若い人と話すと、彼らがいま興味をもつのはカラーブックス。あのストイックさがいいらしい。

辻山 『門と扉』なんて本までありますからね。

中村 最近のとんぼの本では『地元菓子』がカラーブックス的というか、マニアックでよかった。九月に出る『変り兜』も期待しています。

幅 このところ編集方針が変わってきた気がします。かつてのとんぼの本が教科書的だとしたら、いまはもう少し「主語」がはっきりしている。たとえば磯崎新が語る建築シリーズや、リリー・フランキーが語るピートルズなど。

中村 いわゆる「暮し系」の本も多くなりましたね。新しいロゴマーク

もとてもいい。nakabaraさんという

描き手の選択は意外性もあるし、鋭いと思いました。幅さんのお仕事はあたかもDJのように、本を選んで並べることだと思うのですが、いかがですか、とんぼの本の使い道は？

幅 使い道は多いですよ。やはり入門書として最初に手にとる本だし。

辻山 本棚を「編集」するという考えは、日本独特かもしれませんね。

幅 とんぼの本のよさは「つなぎ役」にもなると思う。AとBの棚をつなごうと思ったときにクツションになってくれる。『私の好きなもの』

なんて、建築でも京都でも、どこに差しても大丈夫です。

辻山 たしかに、いろんな場所に置ける本がふえていますね。うちでも基本はシリーズの棚ですが、たとえば『沢村貞子の献立日記』は「文芸」

でも「生活」の棚でも置いています。

私の一冊

幅 感銘を受けた一冊があります。

『鮎12ヶ月』。「新橋鶴八」の鮎を月ごとに紹介するというシンプルな構成ですが、毎回のようにコハダが出て

くる。そしてそこで語られる、先月と今月のコハダの違いの話がたまらないんです。

中村 僕の一冊は『洲之内徹 絵のある一生』。高校生のとき図書館で「気まぐれ美術館」の連載をずっと読んでいました。洲之内さんは文章

はもちろんのこと、地方の知られざる画家を発掘したり、すごい人だったわりにはあまり知られていない。

辻山 『向田邦子 暮しの愉しみ』はとんぼの本らしさが詰まった一冊

と思います。女性の生き方も、文章ものでもありつつ、近年人気の「暮し系」の要素もすでに入っていて、間口が広い。それと『デイック・ブルーナのデザイン』。ブルーナをデザイナーとして評価したさがけだし、仕事上でも数多く売った本として思い出深い一冊です。

幅 教科書的な内容は根強い需要があります。僕はネットでもある程度拾える。僕が紙の本に求めるのは、もう少し下に沈んでいるものを

掬いあげた本です。『鮎12ヶ月』の何に感激したかといえは、そこにかけている時間。きつこの本は二

〇年後に読んでもおもしろい。

辻山 NHKの「新日本紀行」のような本も作ってほしい。北海道、東北など各地方ごとに、文学、美術、歴史などさまざまな視点を入れて。とんぼの本ならできますよね。

幅 『親鸞の「迷い」』を読んで直江津の居多ヶ浜へゆきました。弾圧され配流され、妻子と暮した土地です。親鸞は以前から好きで読んでいたのですが、この本に出会って、そうか、

行ってみようと思った。親鸞と同じ思想をもつのは無理でも、同じ場所に立つことはできる。そして実際に行ってみると、親鸞と自分との距離が測れた気がした。とんぼの本はそうした行為——多くは旅ですが——をうながす本でもありますね。

売行きベスト3

中村 とんぼの本は一九八三年の創刊以来三四七冊作られていて、今年一〇月現在、版が生きているのは一七六冊だそうです。

辻山 かなり残っていますね。

中村 売行きのベスト3は順に『やさしい仏像の見方』(一九八三年刊)

『やぎもの鑑定入門』同『仏像の見分け方』(一九八七年刊)とのこと。

辻山 白洲正子さんの『草づくし』もかなり前ですね(一九八五年刊)。子供のころ家にありました。母親が読んでいた。

中村 僕の場合は『イスタンブール歴史散歩』から。テレビの撮影でカールスモーキー石井さんとトルコへ行ったとき、この本を持参しました。ナレーションもこれを見ながら書いた覚えがあります。僕にかざらず、とんぼの本をネタもにしたテレビ番組はかなりあるはず。

幅 以前、青山ブックセンターの六本木店に勤めていて、建築・デザイン担当でした。とんぼの本の『やさしく極める』書聖『王羲之』(石川九楊書)が出たとき、グラフィックデザインの本に置いたんです。都築響一さんが編集した「アートランダム」シリーズの『石川九楊』と、当時流行しはじめたグラフィティアートの本と一緒に。そうしたらけっこう売れた。じつはそれが本棚を「編集」した最初です。だからよく覚えていきます。

中村 とんぼの本は判型も独特ですね。縦二一六ミリ、横一六六ミリ。手にしたときに横幅を広く感じる。

コロナ・ブックスとふくろうの本も同じサイズですが、あれはとんぼの本にならったのでしょうか。

辻山 ただ、とんぼの本にもA5判(縦二〇〇ミリ、横一四八ミリ)の時代がありますね(二〇〇二年四月〜二年四月)。印象はかなり違って、ヴィジュアルブックとしてはいまのほうがいい。ふつうの本じゃないということがおのずと伝わります。

幅 変型っていいですよ。辻山 棚に差したときに少しはみだして、その意味でも目立ちますし。幅 いまこうやって本の背を見てみると、最近長い書名が多いですね。かつての本は『〇〇入門』『〇〇案内』などと簡潔。

中村 『地元菓子』は短い。幅 いまの時代はそつちでしょうね。タイトルでは説明せず、余白があつたほうがいい。

壁を貸してください。辻山 類書を何冊か並べても、お客

さんが手にとる本ととらない本がある。その違いって何だろうと思うんです。さっきの幅さんの話を聞いて思つたのは、結局のところかけられた時間、手間ヒマではないかと。それが本の手ざわりのようなものとして残り、お客さんに伝わる。

中村 すでに誰かがいったこと以外のこと、よくよく考えたことが書かれていた本は、竹まいでわかります。

辻山 文章だけならネットで無料で読めると、何となくみんなが思っている時代なので、出版社さんも書店も、どうしたらお金を出してもらえるか、本気で考えないと難しい。いまは二〇〇〇円を超えると高い、と思う人が大半でしょう？

中村 とんぼの本のホームページで連載していた川瀬敏郎さんの『川瀬敏郎 一日一花』は三六七五円ですが、よく売れているそうです。カラ一四〇〇頁の本。

辻山 「一日一花」のように、値段に見あつたものであることが一目瞭然なら、抵抗なく買つていただける。

中村 うちでふだんおこなうトークイベントはドリンクつきで二五〇〇

円。二〇代の若者もたくさん来ます。ワークショップだと三〇〇〇円でも問題ない。印象としてはむしろ若い人のほうがその金額に抵抗を感じていません。ふしぎですね。一五〇〇円の本は高く感じるらしいのに。

幅 フジロックのチケットが三日間で四万円くらいでしょうか？ 彼らは「体験」にはお金を出す。やつぱり、顔をあわせて何かしたほうがおもしろいんですよ。僕もこのごろは読書フェス的なイベントを開くことが多いのですが、本の感想を誰かと語りあいたいという参加者の思いの強さを実感する。ネット上ではだめなんです。すぐケンカになったりする。

いま大学で教えてもいるのですが、たしかに二〇歳くらいの子たちに本を読ませることは難しい。三〇代は本好きもわりといる気がしますが、二〇代はおそらく書店にはもうほとんど行かない。でも先日、一九歳の男子学生が『POPEYE』の表紙を見て「これやばいっすね、安西水丸やばいっす」と興奮していました。その様子を見て、ヴィジュアルは突破口になるかもしれないと思つた。

辻山 今年夏の集英社文庫のフェア、キャラクターが20%でした。売れましたね。しかも若い世代に。太宰治や宮澤賢治など、コンテンツは古くても、やり方によつてはまだ読者を掘りおこせる。

中村 とんぼの本だと何でしょう？

辻山 とんぼの本は……逆にいまの時代におもねらないほうがいいでしょうね。五〇〇〇人から一万人に届く本を、細く、深く、ていねいに作つてゆく。本そのものはいままで通り静かな佇まいを保ちつつ、たとえ「6次元」でイベントを開くなど、外側で仕掛けてゆくことが大事ではないか。

幅 新刊も出しすぎないほうがいいと思います。それよりも、既刊をなるべく絶版にしないように、掘りおこしの工夫が必要。

辻山 たしかに。とんぼの本はロングセラーが多いので、他の本のよう
に新刊時に慌てて何かやるより、既
刊本でも世間の動向を見て何度でも
イベントを仕掛けたいし、その
ほうが効果的です。

幅 それと大事なのは、シリーズと

しての認知度を高めること。正直い
つて読者は、とんぼの本とコロナ・
ブックスの違いはあまり気にしてい
ない。それでも、作る側が「とんぼ
の本とはこういうもの」という考え
をしつかりもつていれば、じきにそ
れは伝わり、広がります。

辻山 いまはいろんなカフェやショ
ップも、蘊蓄を語りますよね、コン
セプトというか。こんな時代なので、
みんなよいものを選びたい。そのと
きに「とんぼの本は……」という説
明、ストーリーがあると、迷ってい
るお客さんの背中を押すことになる
と思う。その意味ではロゴマークは
とても大事です。

中村 せつかくnakabanaさんが描い

ただだから、とんぼの絵本を作った
らどうですか。4コマ漫画もいいか
もしれない。それをウェブで公開す
る。最近では美術展でも、新聞や雑誌
の告知より、何かひとつ特製グッズ
が話題になるほうが集客につながる
らしいですから。

幅 僕は什器も作つてしまえばいい
と思う。本棚のように大仰なもの
なく、板を二枚合せただけの看板状
のもの。その片面に、たとえば一二
冊並べる。とにかくとんぼの本は書
影を見せるべきですよ、書店で。

辻山 それだと場所もとらないし、
ありがたいかもしれませんが、
幅 壁に立てかけてもいいわけだか
ら。「壁を貸してください」ついで

て。什器の持込みが効果的なのは、
シリーズのコンセプトまで表現でき
るからです。手帖のモレスキンはず
れで成功した。大事なのはいいねい
に作ることに。むしろそれがあること
で、書店の空間が素敵に見えるくら
いでやりたい。いま出版社から送ら
れてくる宣伝ツールは、POPも販

売台も「売らんかな」色が強すぎて、
書店の空間のことを考えていない気
がするんです。

中村 それいいですね。使い捨てじ
やなくて、使いこむことで味も出て
くる。

幅 二〇年は使つてほしい。そこで
生れるストーリーが、とんぼの本の
「手ざわり」になるはずですよ。

辻山さんが薦める5冊

- 『向田邦子 暮しの愉しみ』
向田邦子 向田和子 144頁 / 1470円
- 『遠藤周作で読む イエスと十二人の弟子』
遠藤周作 遠藤順子 芸術新潮編集部編
128頁 / 1365円
- 『ディック・ブルーナのデザイン』
芸術新潮編集部編 112頁 / 1470円
- 『ビートルズへの旅』
リリー・フランキー 福岡耕造
160頁 / 1680円
- 『ル・コルビュジェの勇氣ある住宅』
安藤忠雄 128頁 / 1470円

中村さんが薦める5冊

- 『日本民藝館へいこう』
坂田和實 尾久彰三 山口信博
120頁 / 1470円
- 『日本の神々』
白洲正子 堀越光信 野本寛一 岡田莊司
160頁 / 1995円
- 『洲之内徹 絵のある一生』
洲之内徹 関川夏央 丹尾安典 大倉宏ほか
144頁 / 1680円
- 『ひらがなの美学』
石川九揚 128頁 / 1575円
- 『イタリア古寺巡礼 シチリアーナポリ』
金沢百枝 小澤実 128頁 / 1680円

幅さんが薦める5冊

- 『鯨12ヶ月』
石丸久尊 杉本伸子 野中昭夫 早瀬圭一
128頁 / 1470円
- 『やさしく極める「書聖」王羲之』
石川九揚 120頁 / 1680円
- 『地元菓子』
若菜晃子 128頁 / 1680円
- 『唐津 やきものルネサンス』
青柳恵介 荒川正明 川瀬敏郎 西田宏子
128頁 / 1365円
- 『日本のかご えらぶ・かう・つかう』
小澤典代 128頁 / 1680円